

大沢右俣

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

車を降りて三〇分程林道を終点まで歩く。ここが二俣となっていて、菅野・渡辺パーティと別れ、水のある本流に入る。当初から沢は源流の様相を示している。三〇分程で二俣。下降の関係から水量の少ない右沢に入る。そこから少し遡ると湧水となる。ここからヤブこぎ一時間程で尾根に出る。

(記・一)

〔タイム〕

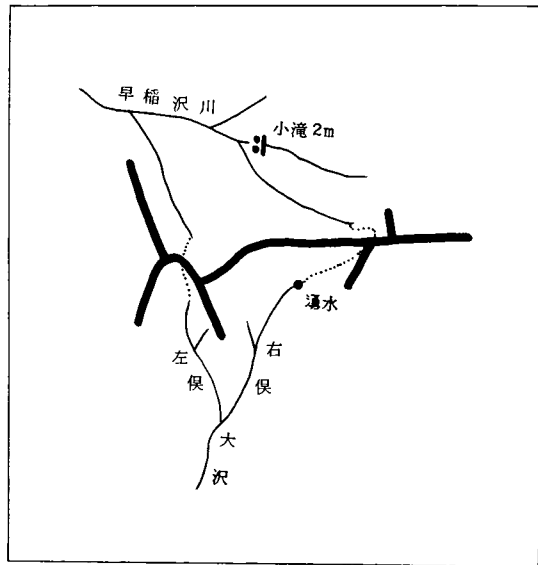
出合七・三〇―尾根九・二〇

大沢左俣

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

最初からヤブこぎの連続。滝もなく、伐採された木々がたくさんあり、沢というよりはその上を歩いたという



大沢、早稲沢川 (作図: 記)

感じであった。地図にはつきりした水線がえがかれているが、沢幅・水量ともたいしたことはなかった。

(記・二)

〔タイム〕

出合七・三〇―沢終了八・二〇